

にもあり、殿上の間の次の間に布障子をへだて、藏人所と云、地下の者候する所也、

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

卯日平明略中次倉代十輿作黒木四角屋形葺檜葉其裡張布塗以白土其屋形以白細布爲齋障子立于四面

〔江家次第七八〕相撲召合裝束

前一日令主殿寮掃除南庭略中置殿東廂布障子二枚於北廂掃部寮官人奉但近例本無此障子

〔禁秘御抄上〕一清凉殿略中渡殿

北副高欄立布障子二間立柱打付畫打毬

〔枕草子八〕板屋せばき家もたりて略中底いときよげにて紫がはしていよすかけわたしてぬの

さうじはりて住居たる、

〔中右記〕天永三年十月十九日癸卯可渡御新造大炊殿也予藤原宗忠依爲上卿辰時許著束帶參仕中

略見廻所々之處朝干飯壺布障子皆悉畫馬形里亭多相具打毬也仍俄可畫具打毬圖之由下知繪

師信貞則令畫圖了令立替

〔狹衣三上〕おはしつきたればかどなどもなくてたゞくぎぬきといふ物をぞえたりける道すゑ

をいれてもしありし山ぶしやあるとたづねさせ給へばえはしありてとくたゞいらせ給へと

あればえるべするまゝに入給へりすこしはなれたる所のかみさうじなどばかりにてあらあ

らしきかりそめのゐどころと見えたり、

〔本朝無題詩二〕屏風付畫障書懷題紙障

藤原通憲

寸祿斗儲求豈得生涯本自任浮沈願身遂識榮枯分在世獨慵遊宦心晉桂當初難入手吳桐何日遇

知音一篇狂句一壺酒箇裡時々足醉吟

〔散木弃詞集九〕隆源阿闍梨七條房にまうすべきことありてたゞくまかりけるにいたはるこ